

平成 20 年 5 月 21 日（水）練馬区行政評価委員会（第 5 回）

第 5 回 練馬区行政評価委員会 要点記録

日 時	平成 20 年 5 月 21 日（木）18 時 30 分～20 時 15 分	
場 所	区役所本庁舎 5 階 庁議室	
出席者	(委員) 委員長 廣野 良吉 副委員長 谷口 敏彦 委員 新木 繁男 市川 庄司 末田 正幸 橋本 満洲雄 廣田 政一 宮崎 健二 (敬称略)	(事務局) 企画部長 中村 経営改革担当課長 藤田 経営改革主査 本山 経営改革課 四本
議事次第	1. 施策評価結果に関する提言の検討 (1) 施策評価結果に対する提言 (案) (2) 提言に添付する資料 2. 次回の開催について	
配布資料	資料 1 施策評価結果に対する提言 (案) 資料 2 提言に添付する資料	

○ 委員長

定刻になりましたので第 5 回の練馬区行政評価委員会を開会します。

○ 事務局

本日は、シーク副委員長、加藤委員、関口委員の 3 名が欠席のため、8 名です。また、傍聴は、ありません。

○ 委員長

本日の委員会では、提言の全項目および提言に添付する資料について検討します。各委員に資料をお配りしてあります。提言書になるというイメージで検討していただければと思います。

★ 議題 1 (1) 「施策評価結果に対する提言 (案)」について (資料 1)

○ 委員長

まず、資料 1 の構成ですが、「はじめに」は、私が委員長として後から書かせていただきます。つぎに「目次」、そして、本編として 3 編あります。第 1 編は、「検討の概要」。第 2 編は、「施策評価の妥当性評価」。第 3 編は、「提言」となります。

では、議論を始めたいと思います。

○ 委員

第 1 編の「検討の概要」については、両副委員長および事務局において、非常によくまとめていただいておりますので、若干語句を修正する程度でいいと思います。

○ 委員長

委員のおっしゃったような方向で、皆さんよろしいですか。

（委員異議なし）

○ 委員長

では、第 1 編「検討の概要」は、これで決めます。

つぎに、第 2 編「施策評価の妥当性評価」については、各専門部会での評価になります。副委員長から説明をお願いします。

○ 副委員長

では、第 1 部会から説明します。9 ページ 2 行目、「第 1 専門部会による評価」となっていますが、この部分には、まず全体としての評価やレーダーチャートを入れたいと思います。レーダーチャートは、○を 2 点、△を 1 点、×を 0 点として足します。表は 10 点満点で表します。評価する施策が 14 あれば、満点が 28 点となりますが、28 点を 10 点に置きなおし表を作成していくということです。

図 1 を見てください。「施策を達成する手段」は、かなり高い点数になっているのが分かります。「指標（代表性）」は、やや低いです。「指標（わかりやすさ）」や、「指標（普遍性）」は高い数字ですが、「目標の妥当性」は、やや落ちています。「判断理由」は、「成果」も、「成果と経費の比較」も、やや問題がある感じですが、「内部要因」は若干低いが、「外部要因」は高い評価になりました。「総合評価（判断理由）」は、何を求めるかということになりますが、やや低い数字になりました。「改革・改善案（内容の具体性）」は、非常に高い数字になりました。

このような説明を、図の上の方でしています。

つぎに、「第 1 部会による評価」ですが、最初にお断りとして、第 1 部会と第 2 部会で様式は統一したいと考えています。つまり、第 1 部会のところ、第 2 部会にある「全体的感想」や「結果比較の表」を入れ、第 2 部会のところ、第 1 部会にある「レーダーチャート」を入れるということです。

まず「区民生活分野」です。レーダーチャートを見ますと、「目標の妥当性」「判断理由」のところに問題があるなと感じます。ただ、全体的には、おおむねバランスがとれているような感じがします。「指標（代表性）」についてはある程度クリアしているかなと思います。

続いて、「環境まちづくり分野」です。レーダーチャートを見ますと、どこかが飛び出しているという感じはありません。ここの指標は 7 つと多いため、平均的に慣らされているということだと分析しています。ただ、その中でも「指標（代表性）」や「目標の妥当性」に少し弱いところがあるかなと思います。「内部要因」は、満足できるような状態ではないかとも思います。

つぎに、第 2 部会についての説明です。「第 2 専門部会の進め方と全体的感想」は、第三者評価を実施するに際して重視した点として、区が作成した施策評価の目指す状態の記載内容であるということです。ここでは施策の目指す状態をより具体的に示すための指標の設定がどうなされていたか、そういったことを判断基準としたということです。また、例として、評価の判断や改善策等の記述については多様な年齢層の区民が読むことを意識し、施策評価表はだれもが理解できる平易な文章で書きあらわされているかを見てきたとあります。この記述部分については、第 1 部会でも相談しながら、これから作成していきたいと思います。

「健康福祉分野」については、「成果指標について」の 4 点目に、「目標値の根拠が明確でない、単なる希望値としてもとれる、目標を増加するのみ」と、あります。このことは、第 1 部会でも同

じですが、妥当性が測れないので、目標設定の仕方を少し改善する必要があるのではないかなと考
えます。

「要因分析」と「総合評価」について書かれていることですが、第 1 部会とも共通しているの
ですが、区民がわかるような表現で書き直すことの必要性が指摘されたということです。

「総合評価」は、ここでは何を求めているのかということが、検討されたということです。

「改革・改善案」は、踏み込んだ分析が十分でないということで、施策の 211 から見ても確かに
そういうことが言えると思います。

続いて、「教育分野」です。「成果指標」は、目指す状態に対して代表性の面で改善の余地があ
るという指摘があります。

最後の「行政分野」については、特にコメントするところはないと思います。ただ、これは全体
に言えることですが、改善策の内容について、評価結果の関連性というのは読みにくいということ
がありました。多分、似たような結果になると思いますが、両部会の調整をとりたいと思います。

○ 委員長

今ご説明があったように、まず「施策評価の妥当性評価」のところでは、レーダーチャートを見
ると、大体どこが問題かがはっきり分かります。ある意味でリスクはあるのですけれども、一般の
方が見ても、文章を読むよりも、ここをぱっと見ることによって、かなりはっきりします。しかし、
文章をちゃんと読まないで、この背後のいろいろな要因は必ずしも十分にわからないということが
あります。今までのところで、もうちょっとこの点は強調した方がいいのではないかとか、あるい
は言葉の点で、ここは言い過ぎかなということがあろうでしたらお願いします。

○ 委員

問題はありませんという、×印というのが各項目に共通して全部ついていますが、多分これは
強調したい点の一つかなと思います。例えば全体の感想の中で、各項目について問題ありというも
のが見られなかったというような形で最初にぼんと出すという形も、一つの方法かなと考えます。

それからレーダーチャートは、いいと思います。このレーダーチャートを、広報用のパンフレッ
トなどに入れ、ビジュアル的に活用するのがいいと思います。

○ 委員長

最初の提案について、いかがでしょうか。評価なされた方からすると、やっぱり各箇所にあった
方がはっきりしていていいという、そういう点があると思いますけれども、ただ読む方としては何
となく重複しているなという感じはしますね。

○ 委員

今あったお話で、やっぱりこれは一つひとつ読むとなると大変かもしれませんので、まとめた方
がいいかなと思います。

○ 委員

全くほかの問題なのですが、第 1 部会のレーダーチャートで図 2 と図 3 がありますが、これはも
っと点数のいい印象を受けるのです。また、図 2 と図 3 を総合しても、この図 1 にはならない気が
しますが、どうですか。

○ 副委員長

図の位置に誤りがありました。図 1 は図 2 へ。図 2 は図 3 へ。図 3 は図 1 のところへそれぞれ訂
正してください。

○ 委員

事務局に質問ですが、第 3 回での資料で配布された、「施策評価結果一覧表」は、添付しないのですか。

○ 事務局

委員会で判断していただければと思います。また、添付する・しない、する場合の位置的なこと合わせて判断いただければと思います。

○ 委員

図の位置が違っているなど今みたいなミスがあれば、ぱっと見てわかってしまいますが、チャートと表が離れてしまうと、ちょっとパンチが弱いかなという感じがします。

○ 委員長

この前の議論では、その表を最初につけてしまうと、それで判断してしまうということがあるから非常に危険だとなりました。だから、つけるとしたら一番後につけるということでしたね。

では、第 3 編に入ります。

○ 副委員長

まず提言 3 です。議論を深めることによって「施策の目指す状態」の実現のため最小限で、かつ脱落のない事務事業を編成することが求められると。これが原案ですが、「求められる」を「望ましい」とする表現の方がいいのではと意見が出ています。

提言 5 では、参考の文章を入れるかどうかを議論いたします。

提言 7 でも、「求められる」を「望ましい」という表現の方がいいのではと意見が出ています。

提言 13 では、「現場担当者」ということに少し抵抗があるので、「実務担当者」ではどうかと提案します。その後ろの部分の、必要に応じて担当者が出席・意見というのは、いいのではないかと思います。

提言 14 でも、「求められる」を「望ましい」とすることと、パンフレットは気がついてとりやすいという、例えば地下鉄で、というコメント付けで、意見があります。

○ 委員長

では、意見を出されている委員から、追加の説明をしてもらい、皆さん方のご意見を聞くという形にします。

○ 委員

単に表現の統一というだけの問題です。一般的に望ましいのか、すべきなのかとか、いろいろと段階があると思い、ちょっと気になることを直しました。

○ 委員

提言 5 のところで参考というのがありますが、これはあくまで参考で、提言の中に入れていただくという気は全くありません。メールでは両副委員長と事務局あてのときに、これで結構です、意見はありませんとしました。こういう事実がありましたということで、今日資料も持ってきております。

○ 委員長

この点について前からご発言がありまして、そういうことでわかっております。特に入れることを主張するというのではないということでした。

○ 委員

23 ページの目次にある提言 13 のところにも「現場担当者」とあるので、「実務担当者」がいいのではないかと思います。

○ 委員

提言 13 の「現場担当者」の部分は、確かに、副委員長が言うように、「現場」というよりは「実務」と言った方が聞こえもいいでしょうし、今風に言えば、スマートだと思いますので、「実務担当者」に変えていただいてよろしいのではないかと思います。

○ 委員長

提案者自身がそうおっしゃっていますので、それで皆さん方もよろしければ、「現場担当者」というところはすべて「実務担当者」に変えるという格好でお願いしたいと思います。

それから、項目によって「求められる」にするか「望ましい」にするかについては、今聞いた範囲内では、格好云々ではないようですので、提言 3・7・14 とも文脈からすると、ここは「求められる」でいいような感じがしますが、皆さんどうでしょうか。

（委員異議なし）

○ 委員長

では、そういう格好でお願いします。それから提言 5 は、橋本委員から、これはあくまで事実としての報告になるので、この参考を入れないという格好でお願いいたします。

○ 委員

提言 13 の「必要に応じて担当者が出席・意見」については、強調したかったのは「必要に応じて」というところなので、これが今までなかったのも、何か毎回出なければいけないというような義務感があり提案しました。

○ 委員長

では、「必要に応じて担当者が出席して意見を述べる」としたいと思います。

それからその最後に、「パンフレットは気がついて手に取り易い（例えば地下鉄の駅に置いてある長大型）ものでしょう。」これは何ですか。

○ 委員

コメントとして入れただけです。要はパンフレットをつくるのが目的ではなくて、気がついてとってもらうことが目的であるということです。ですから、これをどこかの文章の中に織り込んでしまうといいと思います。気がついて手にとりやすいようなパンフレットを作成するなどしてもらえばいいと思います。

○ 委員長

それでは、「例えば地下鉄の駅」というような具体的なことは削除してもいいですね。それから挿絵をまじえた 3 ないし 6 ページのパンフレットを作成すると書いてありますが、作成すれば配布法も考えますよね。まず、手にとりやすいということは、要は見ることができるということですね。だから、より多くの区民が評価結果に関心を持つのではなくて、関心を持つ前にやっぱり評価結果を見るという、何かそういうのをに入れておいた方がいいような感じがします。

○ 委員

提言 14 に、「ホームページや区報で発表しているが、区民の関心は依然として低い。」と断定的になっていますが、こここのところはここまで言い切っているのでしょうか。これだと、現状を委員会が追認しているという感じがします。その辺はいかがでしょう。

○ 事務局

この提言は、依然として関心が低いという部分ではなくて、発表しているけれども、そういうものに加えてもう少しわかりやすく広報していく。そこで関心を持ってもらうような工夫が必要であ

ろうということかと思えます。

あともう一つ、3 から 6 ページということではちょっと規定されてしまっているのですが、パンフレットというような形のもの、裏表 1 枚、あるいは 4 ページぐらいとか、いろいろな作り方があろうかと思えます。

○ 委員長

そうですね、パンフレットというのは短いのが通常ですので、わざわざここにページを入れる必要はないかと思えます。

それからやはり、どうも区民の関心は依然として低いというのは、これは事実かもしれませんが、やっぱりそういう断定的に言うよりも、先ほどこの表題にあるように、公表方法を工夫するわけですから、断定的な言葉は入れない方がいいですね。

それから 3 番目に、「パンフレットを作成する等して」ということで、多くの区民の方が手にとることができるようにするという、単に関心を持ってもらうのではなくて、実際に読んでもらうようにするという、そのことの方が重要ですので、そのような文章の書き方を考えた方がいいかなと思えます。その方向で、いかがでしょうか。

（委員異議なし）

○ 委員長

ありがとうございました。では、一応皆さん方からいただいたそれぞれの意見は合意を得ました。

○ 事務局

提言 13 の部分で、「現場担当者」は「実務担当者」に直すということでご議論いただきました。それについては結構ですが、事務局として、第三者評価の場に出ていくのが実務担当者でいいのか、それとも評価者なのかという話がありまして、むしろ評価者が出ていって第三者委員会に中身を説明するというようなことも必要なのではないかという議論があるのですが、その辺についてはいかがなものでしょうか。

○ 委員長

評価委員会を平日に開催し、必要において担当者がということ。出席し意見を述べるなど工夫を行い、実務担当者に評価検討部会への参加をと書いてある。それとこの前の担当者というのが、実務担当者というふうに理解するのか。担当者というのは何の担当者か、これはわからないですね。例えば評価担当者となるのか。直すとしたら、必要に応じての後に、例えば実務担当者とか、あるいは評価担当者という言葉を入れておいて、が出席して意見を述べるなどの工夫を行い、評価検討部会への参加を区に依頼することが望ましいということ。

○ 委員

現場担当者の評価検討部会への参加を区に依頼することが望ましい。この部分も、工夫すればなくても済みそうです。区に依頼することがこの趣旨ではなくて、評価なり、あるいは実務担当者に出てもらうような仕組みをつくるということの方がこの趣旨でしょうから、最後、区に依頼することが望ましいというこの文章は、なくてもいいような気がします。

○ 委員

我々がこの評価をしたときに、評価表を見たのは、実際に仕事をやられた人たちのやったことを評価した結果を見たのですよね。その場合に、もっと前の段階の実際やっている人たちのやり方が悪くて質問が出た場合と、それを評価した人の評価の仕方が悪くて質問した場合と、両方あったと思います。だから、両方あり得るので、柔軟にケース・バイ・ケースで、フレキシブルに書いたら

いいのではないかなと思います。

提言 13 の 4 行目に現場担当者と残っています。だから、これも含めてこの担当者でいいのか、現場担当者なのか、評価担当者なのか、実務担当者なのか。

○ 副委員長

本当はもっとすばらしい仕事をしているのにというのがあります。実務といったのは、評価者ではありません。本当のところどうなのですかというのを聞きたいなと思ひまして、実務というのを強く出しました。

○ 委員

すばらしい仕事をしているのに、評価の評価表ができていないという話がありましたね。

○ 委員長

そうですね、実務担当者というどうしても評価者を飛び越えていく格好ですよ。だけど、それはそれで必要なときがあると思います。やっぱり評価者の評価が本当にどういう意図でこういう評価をしたのかということを知りたいともあります。それと、必要に応じてという言葉が書いてありますので、両方入れておいた方が両方とも呼べる。そういう言葉を使った方がいいのではないのでしょうか。

それからもう一つは、先ほど説明にあったように、そういう述べる工夫をすることは重要ですから、評価検討部会の参加を区に依頼することが望ましいは、要らないですね。

それから、前の行政評価委員会のときも申し上げましたが、できるだけこういう文章には、日本語が使えるところは日本語を使い、いわゆる片仮名の外国の文字は余り使わないということできたいと思います。

それから、これは私の方からの提案ですが、第 3 編の提言ですぐに、提言 1、提言 2 とすると、なんとなくぶっきらぼうの感じがあるので、何かここに小さなパラグラフ入れたいと思います。

○ 委員

片仮名のことで、提言 3 にフォーカスグループとありますが、これはどのくらいの認知度があるのでしょうか。ワークショップは多分わかると思いますし、ベンチマーキングはこれしか言いようがないと思います。

○ 副委員長

例えば、もっといろいろなものがあるよという気持ちが出たのですが、それはグループインタビューとか置きかえることも可能だと思います。基本的にフォーカスグループは、いろいろな商品開発などで使われてきて、ある世代に向かっていくことです。政策評価においては、特にクリントンがよく使っていましたが、一人のファシリテーターや専門家がいて、インタビューし詰めていくということです。正式には、フォーカスグループインタビューだと思いますが、フォーカスグループディスカッションと言ったり、あるいはグループインタビューと後ろをとったりする人もいます。

○ 委員

今の話聞くと、このフォーカスグループというのは、関心のある人を集めたインタビューということですね。

○ 副委員長

そうです。関心を持った人ということです。そして、それに幾つかの層があって、層を分けて個別に行うことです。ワークショップの場合は、全然違う人たちを集めて議論を闘わすという色彩が非常に強いと思いますが、フォーカスグループは、集めたとき、大体相手は均質です。そし

て、それを幾つか違うグループを集めて議論を積み重ねていきます。

○ 委員

そうなりますと、これはもう区民の考え方でいくと、関心がある人たちを集めた討議とか、そういうことの方がわかりやすいと思いますが。

○ 事務局

なるべく日本語でということですので、定義がしにくい部分については、一つの方法として、米印をつけて下に注釈したいと思います。

○ 副委員長

フォーカスグループは均質ということです。関心のある人たちではなくて、そのグループがある一つの特性を持っています。30代の女性とか、幼稚園の子供を持った人ということです。

○ 委員長

いずれにしろ、区民が見てわからないのでは困ります。特にそういう言葉があったら説明するというところでお願いします。

○ 委員

提言 10 のところですが、成果について、A（成果が上がっている）かB（上がっていない）の二者択一で判断するのは難しいので、Bの方にサブ項目があるように、Aの方にもサブ項目を設けるのはどうなのかなと思います。

○ 副委員長

Aは成果が上がっているのに、分けるのは難しいですね。

○ 事務局

ここでのAかBかというのは、成果が上がっているかいないのかを把握するためです。ですから、Bの場合は、成果が上がってなくても、目標に向かっているかどうかをという状態を把握するためにサブ項目あるので、これは妥当だろうと思います。成果が上がっているということに対して、どんな成果が上がっているのですかということまでは、必要ではないのではないかと思います。

○ 委員

少しでも成果が上がっていればAになりますが、データを見ていると、何かよいとは断定できないが、AとBしかないからAにしてしまったというようなケースがたくさんあったのです。だから第2部会では、それを救済するためにもう一段階あった方がいいのではないかと。例えば、ほんのわずかしかが上がっていない、または目標を達成していないけれども、上がっていると分けてしまう方法です。

○ 事務局

指標が全部達成してれば当然Aでいいのですが、3つの指標のうち一部が達成していない場合に、AかBをつけるかの切り分けができないとかという議論があったように思います。

また、A・Bをつけるルール作りが重要で、Aの中身を2つに分ければいいというようなものではないかなと思います。事務事業評価では、原則として成果指標で達成していなければ成果が上がったというふうにはつけないと言っています。ただし、例えば100を目指していて、98までやっているよといったときに、ほかの指標は達成している場合に、本当にAがつけられないかという議論がありました。そのところは一定程度許容ということで実務的にしています。

施策評価では、指標の軽重というか、優先順位をどうするかという問題がありまして、全部の指標が到達していなければAにつけてはいけないということまでの指示は出しておりません。それ

はある程度、各所管で判断をしていただきたいと。要するに施策の中身が広過ぎますので、実施要領の部分ではそういった形にしているのが現状です。

○ 委員

ですから、Aは完璧にいいよというAと、それから一部だったけれども、総合的にいいよというAと2つ必要かなとなりました。

○ 委員長

では、提言には、評価のルールについて入れたいと思います。

★ 議題 1（2）「提言に添付する資料」（資料 2）

○ 委員長

この資料 2 についてご意見がありましたら、どうぞ。

○ 委員

先ほど話した「施策評価結果一覧表」は、資料 1 の提言の前につけた方が、レーダーチャートとのバランスもあるので、いいのかなと感じます。一番後だと探すのが大変だと思います。逆に初めて見る人は、最後まで行って初めてわかるというような感じになるのかなと思います。

○ 委員

私はどちらかというと、さっき事務局から説明があったように、資料の最後につけたほうがいいと思います。確かに近くに置きたいのですが、置くと全体が表とかばかり出て、バランスを考えると、まずシンプルにして、そして細かいところはみんな後ろに持っていき、見てくださいよという方がいいかなと思います。

○ 委員長

表の位置については、いろいろな意見が出されていますが、ここは、私から提案をさせていただきたいと思います。基本的に一覧表は、委員の皆さん方が精査して、その結果できたわけです。これはまさに施策評価の結果です。結果であれば、それは仕事ですので、資料 1 の評価報告書の中に入れるのが正しいと思いますが、いかがでしょうか。

（委員異議なし）

○ 委員長

それでは、お願いします。

では、各委員の皆さんからいろいろな有意義なご意見をありがとうございました。本日いただいた意見につきましては、副委員長および事務局の方で最終的に修正をお願いしたいと思っております。修正をしたら、各委員に配付いたしますので、最終的な確認をしていただくということを考えています。

○ 副委員長

作業する関係で、もう一度確認ですが、先ほどの「施策評価結果一覧表」の位置ですが、こういう提案でどうですか。副委員長と私のところで 4 つの分野について書きますが、それぞれの改善案の次のところに、環境なら環境のところの分だけ、張りつけたいと思います。そうすると、ボリュームも長くならないので、見る人が楽かなと思います。

○ 委員長

非常にいい案ですね。そういう格好でお願いできますか。ほかのところは、先ほど事務局の方で

要点をまとめていますので、副委員長と一緒にお願いします。

さて、そういうことで、我々の検討の方はこれで終わりにしたいと思います。

★ 議題 2 次回の開催について

○ 委員長

2月に立ち上げた、この行政評価委員会は、次回で最終回となります。次回は6月12日、この会議室で行う予定です。提言書の最終確認を行い、その後、区長さんに提言としてお渡ししたいと考えております。

なお、会議の時間ですが、区長さんの日程を押さえる都合というところから、開始時間を1時間早めて、午後5時30分からお願いすることはできませんか。そして、午後5時30分から午後6時までを提言の最終確認の時間として、区長さんにお渡しする流れにしたいと思います。

○ 事務局

補足ですが、最終日は、委員長からご提案いただいたとおり、午後6時に区長に提言をお渡しいただき、区長からあいさつをさせていただきます。それから委員長から一言、全体の統括をお願いします。その後、区長を交えて、各委員さんからも一言ずつ、感想なりご意見なりというものをいただければと考えています。

○ 委員長

それでは、委員の皆さん、5回にわたりまして、ありがとうございました。あと1回ですので、よろしくをお願いします。

本日はこれもちまして、会議を終了させていただきます。